

Symposium 2025 / A Track

2025年11月1日 13時～17時 @教室#A-0471

A Track : HI（人間の思考）とAI（人工知能）

概要

知働化研究会では、2週間に1回の頻度でリモート懇談（通称缶詰会）を行い、各自の自由研究を進めています。2019年12月～2025年9月の期間で、約130回の会合を行いました。このトラックでは、**各自の自由研究について、人間の思考と人工知能の観点からの検討状況**について披露し、トラック参加者の方々と議論したいと思います。

(A0) Introduction : 知働化研究のあゆみとトラック趣旨（大槻）

(A1) Session1 : 「心の哲学」による人間中心のAIアプリケーション設計の視座（野村）

(A2) Session2 : おもなし（塩田）

(A3) Session3 : AIと共に思考して、人と人が共創していくには（一ノ関）

(A1) ～ (A3) に関する討論 : (仮) AI利用の取り組みについて

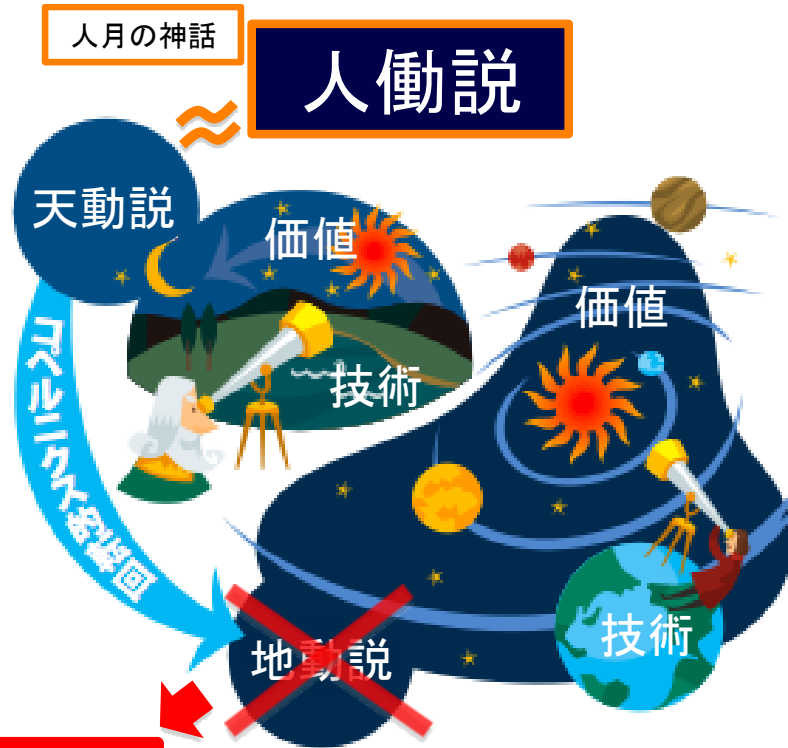
(A4) Session4 : AIが切り開く新しいアーキテクチャ設計論（萩原）

(A5) Session5 : 知働化時代向け『思考の技法』という知のパラダイム（大槻）

(A4) ～ (A5) に関する討論 : (仮) AIパラダイムのゆくえ

Symposium 2025 / A Track : Introduction

(A0) Introduction : 知働化研究のあゆみとトラック趣旨（大槻）



知働化研究会設立趣旨

ソフトウェアとは実行可能な知識であり、ソフトウェアが置かれる世界や様相を主題としなくてはならない。

不確実性に対応するアジャイルプロセスを発展させ、利用や社会的な相互作用をデザインする手法を探究していく。

知働説

知働化研究会
Executable Knowledge and Texture Laboratory



イベントとして
全く新しい知動的試み
想定外こそがバリュー



2025.11.1
Symposium2025

2025

2024.10.12
Symposium2024

2023.12.2
Symposium2023

2024

2023

2022

2021

2020

2019

2018

2017

2016

2014.6.9-11

知働化フォーラム2015

2015.3.5

ソフトウェアシンポジウム2014

ソフトウェアエンジニアリングの遺言WG

知のフリマ第3回 2013.11.2

知のフリマ第2回 2013.6.8

2012.11.3

知の文化祭(知のフリマ第1回)

2012

2011

2010.11.3 知働化研究会誌創刊第1号発行

2010.6.11 新ソフトウェア宣言

2010.6.9-11 ソフトウェアシンポジウム2010

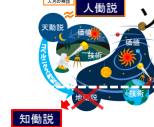
ソフトウェアエンジニアリングの呪縛WG

2010

呪縛

2009

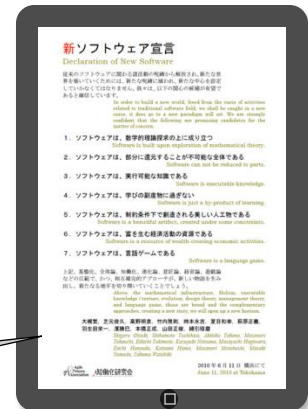
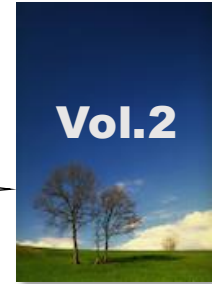
2009.6.8 設立



同人誌的に200ページほど皆
さんの想いが詰まってます

当時貯まった知を
はき出しました

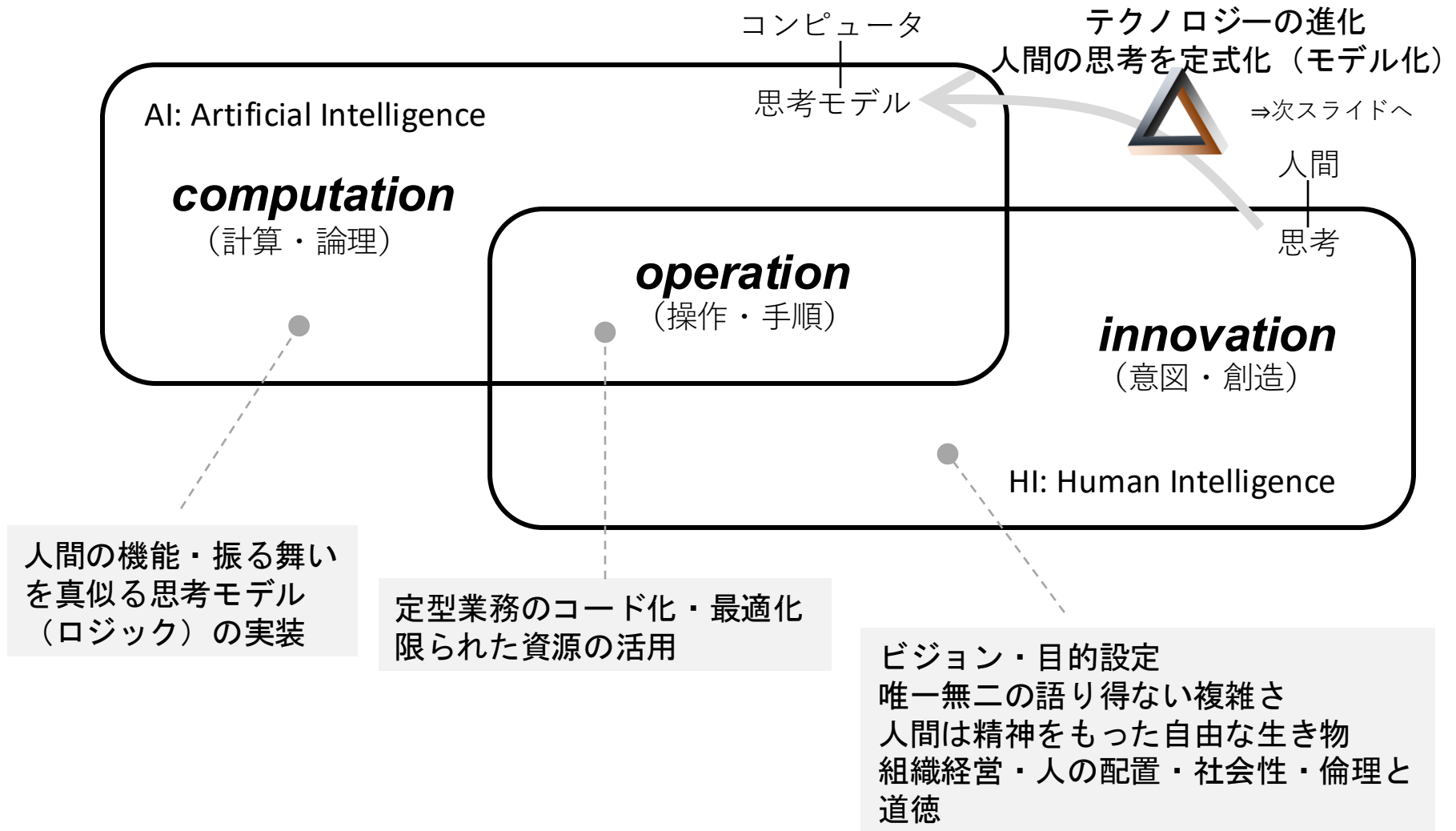
<https://www.amazon.co.jp/dp/4865436324>



とりあえず
次世代の方向性を示した

2003.7 アジャイルプロセス協議会 設立

思考の技法の哲学の位置づけ



ちょっとパラダイムシフト

人間本来の思考はこちら

	旧	新
経済・社会の原理	人働説	知働説
哲学的基盤	コンピュータ機能主義	言語ゲーム＋新实在論 (ウィトゲンシュタイン ＋ガブリエル)
思考とは？	思考モデル (コンピュータ)	思考 (人間)
デザイン学	技術主導	意味論的転回
システム学	単純システム	複雑系
組織	階層組織 (官僚的)	セル組織 (ティール)
能力	オペレーション	イノベーション
物理世界	アインシュタイン (決定論)	シュレーディンガー (量子論)
脳	ホーキング (計算可能)	ペンローズ (量子脳)
シンギュラリティ	AGI実現可能	AGI不可能

Symposium 2025 / A Track : Discussion A1～A3

(A1) Session1 :

「心の哲学」による人間中心のAIアプリケーション設計の視座（野村）

なぜ哲学が人間中心のAI設計に不可欠なのか？「意識」や「理解」などをキーワードに、「心の哲学」の知見をAIアプリケーション設計に活かすための視座を提示します。

(A2) Session2 :

おもてなし（塩田）

サービスとしての「おもてなし」は 初めて会った人にも同様に行えるよう感じました。

皆さんはどう考えますか？

(A3) Session3 :

AIと共に思考して、人と人が共創していくには（一ノ関）

TOCの思考ツールに「思考プロセス」というものがあり、その考え方と活用事例を紹介

Symposium 2025 / A Track : Discussion A1～A3

- 野村さんのSystem0、塩田さんのおもてなし、一ノ関さんの思考プロセス；それぞれがお互いにどのように見えているのでしょうか？
 - ✓ System0から見たおもてなし、思考プロセス
 - ✓ おもてなしから見たSystem0、思考プロセス
 - ✓ 思考プロセスから見たSystem0、おもてなし
- HI（人間の思考）とAI（人工知能）
 - ✓ System0:拡張された心におけるHIの中心課題は何か？
 - ✓ おもてなし：守・破・離 は、AIおよびその活用法の進化に寄与するか？
 - ✓ 思考プロセス（TOC）：HI、AIの実践上のボトルネックの本質は何か？
- 未解決問題は何か？

Symposium 2025 / A Track : Discussion A4～A5

(A4) Session4 :

AIが切り開く新しいアーキテクチャ設計論（萩原）

「個や集団の意図や意味をどのように社会に反映させるか」をアーキテクチャ論で解説する。

討論のテーマとして、

- 個から社会への文脈の反映
- ミームを前提とした進化アーキテクチャ
- sociotechnoogy設計論
- AIの意味フレーム問題をアーキテクチャ設計でどのように解決するか

(A5) Session5 :

知働化時代の思考の技法（大槻）

知働化時代向け『思考の技法』という知のパラダイム

知働化の時代の哲学（新実在論）と、デザイン、システム、ソフトウェア学の新たなアプローチ、「目的ファースト」「抽象化」「コミュニケーション」といった核心概念の紹介。

Symposium 2025 / A Track : Discussion A4～A5

- 萩原さんのアーキテクチャ設計、大槻の思考の技法：
それぞれがお互いにどのように見えているのでしょうか？
 - ✓ アーキテクチャ設計から見た思考の技法
 - ✓ 思考の技法から見たアーキテクチャ設計
- HI（人間の思考）とAI（人工知能）
 - ✓ 世間一般のアプローチで足りないところは何か？
 - ✓ AIテクノロジーの本質・中心課題はどこにあるのか？
 - ✓ 依拠する哲学の革新：System0、アーキテクチャ設計、思考の技法
- 未解決問題は何か？

おまけ: 哲学の系譜

